

高齢者の結婚生活の質と心理的適応および余暇活動 —関係性ステイタスの観点から—

宇都宮 博* 立命館大学文学部

本研究は、高齢者の心理的適応ならびに余暇活動のあり方が、配偶者との関係性によってどのように異なるのかを計量的に検討することが目的であった。対象者は、有配偶高齢者 364 名（年齢：平均=66.3 ($SD=4.7$), 結婚年数：平均=40.3 ($SD=4.7$)) であった。データは、配偶者との関係性を判別するための文章完成法、余暇活動（一人で行う個別的活動・夫婦で共有する共同的活動）への参加状況、心理的適応（主観的幸福感、過去の結婚生活に対する回想、日常的葛藤）に関する測定尺度などからなるオンライン調査によって収集された。配偶者との関係性については、「人格的關係性型」、「献身的關係性型」、「妥協的關係性型」、「拡散的關係性型」、「表面的關係性型」、「独立的關係性型」のいずれかのステイタスに分類された。配偶者との関係性によって、心理的適応と余暇活動の両方において違いが確認された。余暇活動のうち、夫婦が共有する共同的活動は、「人格的關係性型」が最も頻繁に行っており、彼らは心理的適応の水準も最高であった。対照的に、「拡散的關係性型」は、共同的活動が最も少なく、心理的不適応が他のステイタスよりも非常に強く示された。

キーワード ⇒ 老年期, 結婚生活の質, 配偶者との関係性ステイタス, 心理的適応, 余暇活動